

令和4年5月1日

敬愛短大附属幼稚園だより 5月号

日差しのある時はとても暑く、初夏の様相を呈しています。園でも十分に水分と休憩を取るなど健康面の注意をしています。

4月に入園した年少さんも園庭で元気いっぱいに遊んでいます。また、園庭の野草園が開放され、幸せの四葉のクローバーを見つけようと園児たちは必至で探し、見つけると「どうだ」と自慢げに見せ、先生にパウチしてもらい大事にしています。園内は季節の変化に伴って動植物も大きく変化してきました。

【可能性の開発】



「プラスチックは電気を通さない」という常識を覆し、導電性高分子を発見・発展させた功績が認められ、2000年にノーベル化学賞を受賞された白川英樹先生（東京工業大学博士で筑波大学名誉教授）と幼児教育も推進しているソニー教育財団の方に千葉市内の中学校で撮影していただいた写真が出てきました。

白川先生は、ソニー教育財団が主催している未来の科学者を育てる中学生が参加できる「科学の泉」の講師として、全国から応募してきた生徒たちと長年にわたって白馬村などで夏休みに合宿して、紙のように薄い導電スピーカーなどの製作を指導したり、先生から

直接ノーベル化学賞の研究についてのお話をお聞きすることができます。

私の妻も保健指導の担当者としてソニー教育財団から要請があり、「科学の泉」に参加させていただきました。（全国から選ばれたよりすぐりの中学校の理科担当の先生も指導者として参加します）その時に全国から応募してきた子どもたちの文章を読ませていただいたことがあります。とても中学生とは思えないレベルの書き方や内容で、さすがノーベル賞受賞者を多く輩出する日本だと感じました。

能力の高い子どもたちにはその能力をもっと高めることができますが、白川先生が大切にしていることは「科学する心」（本園も応募したソニー教育財団の応募論文のキーワードにもなっています。当園のホームページに全文を記載してありますのでご覧ください）に人間性を高めることを大切にされています。将来どんな職業に就こうともまた、どのようなことをするにもそうした「高い人間性」を身につけていないと、社会に貢献することはできないということなのです。

妻が参加した年の参加者には、その後変わった職業に就いた子がいます。フェリス女子学院を卒業し、お笑い芸人となった「たかまつなな」（本名は高松奈々）さんです。彼女は普通なら有名大学にそのまま進学してもおかしくないのですが、親御さんの大反対にもかかわらずお笑い芸人になったのです。彼女から招待を受けて出演する舞台も見学にも行きました。

その後、慶応大学大学院・東京大学大学院を経てNHK局員、お笑いジャーナリストの道を歩きました。現在は笑下村塾創業者、取締役、元代表取締役社長。

大人がこういう子だと決めつけたり押し付けたりせず、持っている良さを伸ばし、好きなことをとことんさせてあげられる環境を作ることが大切で、子どもにとっては、自分のしたいことを高い目的意識をもってできることが一番の幸せです。重要なのは可能性の開発なのです。

（園長 杉山清志）